

## 研究ノート

# 翻訳の苦しみと楽しみ

—The Pains and Joy of A Teacher-Translator—

飯塚成彦

私の専門は英語翻訳ではなく英語教育であるが、教師になってから35年余りの間には、少なからず英書の翻訳を頼まれ、出版されたものが約三十冊ある。それぞれ非常な苦勞をしたが、中でも、スヌーピーの訳は大変だった。何しろ、日本語の大家であり大詩人である谷川俊太郎氏の名訳<sup>(1)</sup>が多数出版され、長年愛読されているのを知りながら、チャールズ・シュルツ氏と同じ作品を翻訳するのである。谷川氏は、英語の専門家であろうがなかろうが、大ベストセラー「マザー・グースのうた」<sup>(2)</sup>（草思社、1975）などで、押しも押されもせぬ翻訳者として通用している大先生。さて、角川春樹氏が私に目を付けた理由は何だったのだろうか。第一に考えられるのは、私が長年、早期英語教育の実践的研究をしていること。次には、「面白く楽しい英語習得」をめざした教材を多数出版していたことがあげられる。要するに、「飯塚なら売れるものを作ってくれるだろう」と考えてくださったのであろう。

だが、さすがは角川書店、私に対する要求も厳しかった。スヌーピーの英語を、活字と音声の両面で、3才の幼児でもわかる日本語にしてくれ、というのである。引き受けた以上後へは引けず、約2年半。ほとんど休み無く作業を続け、10冊の絵本と10本のテープを完成したのが1984年であった。その後、その本やテープの活用などを通じて学びとったことの一部と、最近英訳した詩を数篇紹介し、私なりの「翻訳の苦しみと楽しみ」の中から、ご参考になるものがあれば、と願う次第である。

## その1。イースターの兎をもじった THE EASTER BEAGLE

Easter は熱心な Christians にとっては、Christmas 以上に大切な祭りである。キリストの復活を祝うこの日には、教会の内外でいろいろな行事があるが、とりわけ子供たちに人気のあるのが、庭のあっちこちに隠してあるきれいな卵を見つけること。見つけた卵にさらに褒美がつくなど、この春のお祭りと卵とは、切っても切れぬ仲である。またその卵と縁が深いのが Easter Rabbit であるが、かなり昔から、どういう訳か、鶏でなく兎が登場することになっている。ところが、1971年に、突如として、兎の代わりに犬が登場し<sup>(3)</sup>、世間を騒がせる。それが、Snoopy の The Easter Beagle である。このイースター・ビーグル犬は庭木などに卵を隠すよりは、気前良く子供たちに直接あげるのが好きである。そして1972年の春、次のようなことが起きる<sup>(4)</sup>。

(Linus 坊やが庭先で誰かが近づく音を聞いて言う。)

Is it? It is! The Easter Beagle is coming!!

そこへやってきた Snoopy は手に持った籠から、卵を一つ、ポンと Linus に与える。それから、あまり親しくもない Violet ちゃんを始め、Sally ちゃん、Schroeder 君、Patty ちゃんへと、Snoopy が卵をポンポンあげていくのを、嬉しそうに眺めていた飼主の Charlie Brown は、最後に「ぼくにも頂戴」と手を出す。

ところが、大変。籠の中は空っぽ!そこで Snoopy は言う。(註:彼の言葉はすべて頭の中だけでのことであるが、仲間には通じるのである。)

Sorry, kid.... That's the way it goes!

さて、この和訳が問題である。

谷川氏は「わなかったね、坊や．．．これも、なりゆきってもんさ！」と  
 している。あきれ顔のご主人様に背を向けて立ち去る涼しい顔をした Easter  
 Beagle こと Snoopy の日本語のセリフとして、これに優るものはない、と  
 大人の読者は思うかもしれない。しかし、幼児や児童にはどうか。ましてや、  
 3才児にも抵抗無く分かってもらえる言葉となると、ちょっとやそっとのこ  
 とでは思い浮かばない。四苦八苦の果て、幼稚園児や小学生と相談し次のよ  
 うな文となった。

「ごめんね、ぼっちゃん．．．わざとしたんじゃないんだよ！<sup>(6)</sup>」

これが極め付けの名訳かどうかは別として、この絵本と Snoopy が特別  
 に英語と日本語でしゃべっているカセットテープを2、3週間愛用した3才  
 の男の子が、この英語の（難しい）表現を実に適切に使っている、という報  
 告をお母さんから聞いたことがある。

「俊之君のお父さんが、日曜日の夕方、お客さんと家でビールを飲んでい  
 たときのことです。食卓上のビールがなくなったので、お母さんに追加を  
 頼んだところ、冷蔵庫の戸を開けて、びっくり。ビールは一本もありません。  
 近所の酒屋さんはみなお休み。お母さんに文句を言っているお父さんに向かっ  
 て、すかさず坊やが言いました。

Sorry, kid... That's the way it goes!

ごめんね、ぼっちゃん．．．わざとしたんじゃないんだよ！

Sorry, kid... That's the way it goes!

お父さんは、とたんに上機嫌になり、俊之君を抱き抱えて大喜び。お客さ  
 さんは、坊やのことを、天才児と誉めそやした由。」

これは別に珍しいことではない。俊之君は、英語＝日本語＝英語と sandwich  
 式に吹き込まれているセリフを何回か聞いているうちに、状況を正確に理解  
 して覚えたまでのこと。この場合、この和訳文は少なくとも、合格点をもら

飯塚 成彦

えるのではなからうか。

## その2。ADULTHOOD と SCROOGE AT EASTER

たかがマンガと侮ることなかれ。近頃の大学生などにはとても歯がたたないような単語や熟語を始め、英語教師すら泣かせる表現が次々出てくる PEANUTS を十分理解するには、英米文学の素養もかなり必要である。ここでは、1976年の Easter に現われた、変な Easter Beagle の話と、谷川氏訳<sup>(6)</sup> および、拙訳<sup>(7)</sup> の一部を紹介しよう。

Linus : Where 's the Easter Beagle?

Snoopy : Sleeping in!

Linus : You're not up yet!

Snoopy : Go away! I feel awful!

Linus : Kids all over the world are waiting for the Easter Beagle!

You can't disappoint all those kids!

Snoopy : \* Why not? It'll be good for 'em.

It'll prepare 'em for adulthood.

Linus : You're the Easter Beagle!

You've got to get out there and deliver those eggs! It's your job!

It's your duty!

Snoopy : But I'm sick!

Linus : These eggs have to be delivered!

Snoopy : Stop talking about food.. I ate too many pizzas last night..

Linus : Get out there and deliver those eggs!!

Snoopy : Stupid kids!

Grumble, grumble, grumble.....

Sally : \* \* Scrooge at Easter?!

谷川氏訳：\*かまわないだろ？むしろいいことだよ．． おとなになる覚悟を  
きめさせるのさ．．．

\*\*イースターにスクルージがあらわれたの？

飯塚訳：\*いいじゃないの。こどもたちの、ためになるとおもうよ．．．

おとなになったら、つまらないことがいっぱいあるから、そのじゅ  
んびってわけさ

\*\*イースターのおまつりに、けちんぼじいさんが、くるなんて?!

\*については、adulthood の訳を取って少し説明的にし、\*\*については、  
Charles Dickens の A Christmas Carol の主人公でつむじまがりの守銭奴  
Scrooge を、谷川氏のようにそのままにはおけなかった。そこで、「ク  
リスマスのとき出てくる、けちんぼじいさんがイースターにでてくるなんて」  
としたいところであったが、日本語のセリフを短くし、英語の録音時間をで  
きるだけ長くして、英語習得に役立てよう、との方針に従うことにした次第  
である。

このような録音台本作りを兼ねた翻訳の体験が、大学の英語の授業で使う  
日本語の時間短縮にもおおいに役だっているから、捨てたものではない。

英語の授業とはいいいながら、日本語を話している時間が大部分を占めてい  
る方々には、この Snoopy tapes を一度なりともご活用、ご研究するようお  
勤めしたい。（コマーシャルのようだが、さにあらず。何故なら、残念ながら  
、現在市販されていない！但し、私蔵のもの貸出し可。）

### その3。名訳？ 迷訳？

翻訳には絶えず迷訳や誤訳の危険性がつきまとう。これを克服するのは至  
難の業。語学教師も翻訳業も、決して楽なものではない。ちょっとした迷訳  
？と思われるものの例を挙げよう。

（Charlie Brown が獣医さんに電話している。）

谷川氏訳：Charlie Brown（以下 C.B.）はい、先生（犬小屋の上にはまっている Snoopy に）もし気分がよくないんなら、熱をはかって、もういちど電話するようになって獣医に言われたんだ．．．（そこで、Snoopy は体温計を口にくわえて仰向けに青空ベットに寝る。その体温計の先に小鳥の Woodstock がとまる。再び C.B. がやってくる。C.B.：へんだなあ．．．これを見るときみの熱は華氏42度しかない．．．分からないなあ（と言って、体温計を眺めながら立ち去る C.B.。見ると Snoopy の小屋の側面には、HAPPY BIRTHDAY, AMY! の貼紙がある。女の子の誕生日パーティーでもあるのか．．．仰向けに寝たままの Snoopy が次のように言う。

Somebody must have had cold feet!

谷川氏訳：きっとだれかさんの足が冷たかったのさ！<sup>(8)</sup>

ここに使われている have cold feet は「おじけづく、しりごみする」という意味で使われている慣用句であるから、上のように訳するのは如何なものか。

飯塚試訳：だれかさん、きっと、パーティーがこわくなって熱だしたんだ。  
（註：異性を意識し過ぎると、こういうことが起きるようだ。）

#### その4。CHRISTIANITY に関する知識の重要さ

信仰の有無は別として、キリスト教の知識がないと、マンガすら十分読みとれないことが少なくない。とくにこの PEANUTS こと Snoopy のマンガは、すくなくとも、米国やカナダの牧師や司祭が教会の説教でしばしば活用するほど「宗教的」でもあるのだ。この点、谷川氏訳で時々気になることがある。

たとえば、よく PROPHET (預言者)として登場する Linus 君を谷川氏は「予言者」<sup>9)</sup>と訳している。予言者とは、この漢字だと、単に「将来起こることを、あらかじめ言う能力のある人」のことであろう。それなら、predictor とか foreteller であって、厳格な意味では、prophet ではない。

Linus 君の言動から推して、作者は、この坊やを「神様から言葉を預かった不思議な能力の持ち主」として扱っていることは間違い無い。日本国語大辞典(小学館 1976)によれば、預言者とは「キリスト教で、古代イスラエルにおける宗教上の指導者であり、神の啓示を受け、これを神託として世人に伝え、それによって世人を導き、未来をさとす人をいう。」だから、男勝りの姉の Lucy からの虐待に耐えながら、この豆預言者は、しばしば聖書からの引用文で、姉にユーモラスに反論したり、たしなめたり、友達を慰めたりして、PEANUTS マンガの価値を高めている重要人物であって、「予言者」にとどまるほどの小物ではない、と解釈するのが自然である、と私は考える。

このようなことからすると、この comics は大学のテキストとしても、かなり骨の折れるものではあるが、味わい深い良書になりそうだ。いずれ、著者の許可が得られたら、注釈付きテキストの出版をしたいものである。

念のため、ある日の預言者 Linus とその姉 Lucy の会話を拙訳とともに紹介しよう。

1 : (Linus が PROPHET と書いたプラカードを持って立っている。)

2 : (家の中で Lucy はテレビの再放送番組を見ている。)

Linus : (左腕には安全毛布を後生大事に抱え、右手の親指は口に入れたまま)

Is that all you do, watch repeats?

Lucy : Buzz off!

Linus : \*Sigh\*

Lucy : Stop that stupid sighing!

Linus : There's nothing wrong with sighing

(註：ここにはa periodを打たない。)

Lucy : There is if it bugs someone.

Linus : It's scriptural!

Lucy : It's what?

Linus : "Likewise the spirit helps us in our weakness: for we do not know how to pray as we ought, but the spirit himself intercedes for us with the sighs too deep for words." "Romans"... eighth chapter!

Lucy : I don't know... I'm either going to slug him, or start going back to Sunday school!

飯塚試訳：

ライナス：おねえさんって 再放送見るのがお仕事なの？

ルーシー：出ていきなさい！

ライナス：\*うめき\*

(註：「ためいき」とも訳せるが、下の聖句の訳に合わせた。)

ルーシー：その まぬけたうめき声は よしてよ！

ライナス：うめきの どこが悪いの？

ルーシー：ひとを いらいらさせるところよ！

ライナス：うめきは聖書から出ているんだよ！

ルーシー：何ですって？

ライナス：「同様に、霊も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、霊自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。

(あっけにとられている姉を尻目に、出典を明らかにしつつ去る)

ローマ人への手紙8章！」<sup>(10)</sup>

.....

ルーシー：どうしようかなあ。あのこをひっぱたくか、それとも、わたし

が教会の日曜学校へまた通うか、どっちかにしなきゃ！

ここで、たいていの欧米人のみならず、キリスト教に通じた人たちなら国籍を問わず、腹をかかえて笑い、そして、自ら省みる人が少なくないはずである。しかし、日本では、英語学者の中でも、このユーモアがピンとこなくて「うめく」人が多いのではなからうか。こんな所にも、私たちがいくら英語を勉強しても世界的にはなかなか通じない原因の一つがあるのではなからうか。

世界総人口の約33%がキリスト教徒であること<sup>(11)</sup>と、世界中の1600以上の新聞、雑誌がこの漫画を掲載し続けていること<sup>(12)</sup>と直接関係があるとは言えないが、40年を超える絶大な人気の根源に、作者 Charles M. Schulz 氏の価値観が深く関わっていることは否定できない。国際化の重要性が声高に叫ばれる昨今であるが、語学や経済だけの問題でないことを、こういうことから痛感するのは筆者だけであろうか。

## その5。日本人の心を英語で…

### ——八木重吉の詩の英訳に挑む

英文を和文に訳すのが得意な人は日本中に満ち溢れているが、和文英訳の達人、更には、達意の文章を始めから英語で書く日本人にはなかなかお目にかかれない。わたしの恩師松本亨先生は、その数少ない達人の一人であったが、英文での物書きを志すなら、和文英訳はできるだけしないで徹底した Thinking in English の習慣を身につけよ、と教えられた。その教えに従って、私はやむを得ない場合を除いて、できるだけ直接英語でものを書くことにしているし、大学の英作文のクラスでもそのことを強調し、和文英訳はほとんどさせていない。ところが、1991年の暮れ、そうばかりしておれぬ事情ができてしまった。敬愛してやまぬ詩人、八木重吉(1898～1927)の詩<sup>(13)</sup>を英訳することになったのである。

1991年秋、私の翻訳で出版されたばかりの「マザーテレサ 愛は傷つく」<sup>(11)</sup>のとりもつ縁で、八木重吉の未亡人（当時86歳）と会い、共に私淑するカトリック神父から勧められるままに、非力も顧みず、重大な約束をしてしまったのである。John Keats や Rabindranath Tagore にも通暁していた重吉の、1600篇を超える詩を研究するだけでも何年かかるか分からない、とは思ったが、難病の筋ジストロフィーで長年入院中の中垣純神父も、またお体の弱っている八木未亡人吉野登美子さんも、そう長くは待ってくださらないかもしれない。「えいっ」とばかりに、出勤前の早朝にすこしずつ訳したものを、昨年のクリスマス レターに印刷し数人のアメリカ人とカナダ人教師に送ってみた。その反応が思ったよりも悪くなかったのに気を良くして、ほとんど、拙訳のまま、ここに10篇を掲載することにした。できるだけ原詩に忠実に訳したつもりであるが、思わぬ取り違えがあるやもしれないので、ご教示頂ければ幸いである。但し、換骨奪胎や、あまりの名訳は望むところにあらず。あくまで、英語教育を念頭をお願いしたい。

花はなぜうつくしいか

ひとすじの気持ちで咲いているからだ

Why are the flowers so beautiful?

It is because they are blooming single-heartedly.

空のようにきれいになれるものなら

花のようにしずかになれるものなら

値なきものとして

これも捨てよう あれも捨てよう

If I can become as clear as the sky;

If I can become as quiet as flowers;

Then I will gladly throw away what I possess,

One after another,

as if they were worthless things.

世に花咲かば 神あるをしれよ  
世に無心なるものあらば  
神あるをしれよ  
神のこえは ほそくかすかなりとか

Look at the flowers blooming in the world,  
And convince yourself that God is ruling the world.  
Look at those things innocent in the world,  
And convince yourself that God is speaking softly  
and subtly.

わたしのまちが이었다  
わたしのまちが이었다  
こうして草にすわれば  
それがわかる

I was wrong;  
I was wrong.  
Now I know it,  
Sitting like this on the grass.

えんぜるになりたい  
花になりたい

I would like to become an angel;  
I would like to become a flower.

宇宙の良心—那蘇

The Conscience of the Universe: Jesus

自分の心に  
いつも大きな花を持っていたいものだ  
その花は他人を憎まなければ  
蝕まれはしない  
他人を憎めばそこだけ腐れていく  
この花を抱いて皆ねむりにつこう

Let us have a large flower in our hearts;  
If we do not hate others,  
The flower will not be eaten by insects.  
It will decay as much as we hate others:  
Let us all go to sleep  
Cherishing this flower in our hearts.

たまらなくなってくると  
さびしくなってくると  
さっと  
てのひらで わたしのまえを切る  
きられたところから  
花がこぼれる

When I feel it unbearable;  
When I feel so lonesome,  
Forcefully with my hand  
I cut the air in front of me:  
Flowers fall down  
from the place cut open by me.

やまぶきの花 つばきのはな  
ころくらききょう しきりにみたし

やまぶきのはな つばきのはな

Flowers of Kerria! Flowers of Camellia!

My heart is so dark today that I am eager to see

Those bright flowers of Kerria and Camellia.

神のごとくゆるしたい

ひとが投ぐるにくしみを むねにあたため

花のようになったらば

神のまえにささげたい

May I forgive others just as God forgives!

I will cherish their hatreds towards me in my hearts;

And when those hatreds become like flowers,

I would like to offer them to God.

-----

Charlie Brown ならここで “Good grief!” (やれやれ) と言うところだが、話は始まったばかり。ここでやめるわけにはいかない。しかし、授業の準備、小テストの採点、学生部の仕事などなど、教員としての本務にも励まねばならない。夢の世界からうつつの世界へ一時たちもどり、改めて、英語といえ、苦しいことしか思い出せない、多くの学生のために、英語学習の楽しさを味あわせる努力を続けるとしよう。では、次号をお楽しみに。ご機嫌よう。

(1993年5月G. W.)

#### 参考文献

1. Schulz, M. Charles 著, 谷川俊太郎訳: SNOOPY BOOKS Volumes 1~85. 角川書店. 1980年~1986年  
同上 \* \* SNOOPY SUNDAY Volumes 1~10. 同上  
1971年~1980年

飯塚 成彦

2. 谷川俊太郎訳：マザーグースのうた1, 2, 3, 4, 5集。草思社。1975年。
3. SNOOPY SUNDAY Vol.1, p.32.
4. 同上 Vol.2, pp.30,31.
5. Schulz 著, 飯塚成彦訳／編集：\*スヌーピーのおもしろ英語ランド第1巻。p.12。角川書店。1984年。
6. 同上 谷川俊太郎訳：SNOOPY SUNDAY Vol.6, pp.34,35. 角川書店。1976年。
7. 同上 飯塚成彦訳／編集：\*同。pp.14~22.
8. 同上 谷川俊太郎訳：\*\*同。Vol.3, p.65.
9. 同上 Vol.4, p.16.
10. 日本聖書協会：聖書 新共同訳, 新約 p.285。日本聖書協会。1989年。
11. ENCYCLOPEDIA BRITANNICA 1991 Year Book.
12. Schulz 著, 谷川俊太郎／松岡和子訳：ピーナツ ジュビリー。角川書店。1982年。
13. 八木重吉：定本 八木重吉詩集。弥生書房。1987年。
14. Dan Paulos and Mother Teresa 著 飯塚成彦訳：ドン ボスコ社。1991年。

## 後 記

八木重吉の拙訳詩10篇は、この原稿作成直後に月刊「カトリック生活6月号」(ドンボスコ社 1993年)に掲載された。